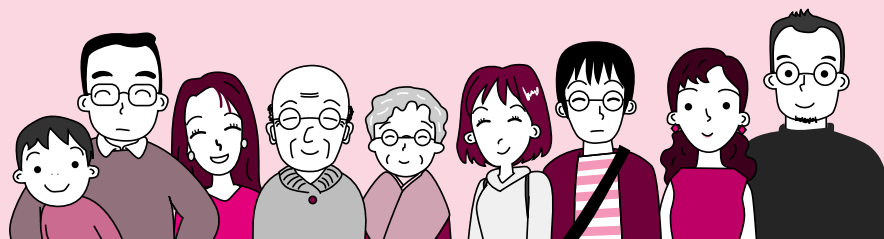


# 町民みなさんのひろば

## わたしのひとこと



### 小川手漉き和紙

古寺 青木タカ



平成 12 年 2 月 20 日付けの朝日新聞に、澤地久枝さんが柳宗悦著『芭蕉布物語』の本について、次のように書いている。「こんなに美しい本はめったにない。本文用紙は武州（埼玉県）小川の手漉き和紙。表紙は柳生の産、いずれも堅牢を誇り、けば立たない」。当町の地場産業である和紙製造は、衰退の一途をたどっている。この古寺地区も、昭和のころは紙漉の家が何軒もあったが、今は一軒もなくなってしまいました。

1300 年の歴史と、澤地久枝さんも絶賛しておられる小川和紙。少し前までは小川といえば和紙の町であったが、今は小川といえば有機の町となりました。

先日初めて腰中地区の紙漉きの家にお伺いしましたが、どうも後継者は？ と疑問を感じてしまいました。この伝統産業を町でも少しは力を入れて、後世に何とかつないでほしいと切に感じた次第です。

### 活気ある稲荷町へ

稲荷町 青和会会長 山本 孝



稲荷町で暮らし始め、早いもので 40 年。今では「当たり前」の言葉になってしまった少子高齢化が、御多分に漏れず我が町内でも。

「少子高齢化」で片づけてしまうことは簡単だが、住んでいる自分たちが動き出さなければ何も始まらなと痛感し、このたび稲荷町の若人を中心に「青和会」を発足しました。

町内行事の「稲荷町こいのぼり」や「七夕祭り・子どもみこし」「槻川河川清掃」等、多くの事業に参加し、サポートすることで稲荷町から若人集団の熱意を発信し、町を活性化させるため老若男女一丸となり、意識を高めていければと思っています。現代の多くの若者は、行き場のないパワーを発揮できずにいるように感じられます。私たち青和会は、このパワーを活気ある町づくりのために発揮できる環境を、つくっていくためのサポーターでありたいと思っています。

## ごみ・し尿処理・消防・救急・斎場等の議会報告

比企管内の自治体では、ごみ処理や消防、火葬場等の運営を行なうため、2つの議会を設置。参加している自治体の議会から議員をそれぞれ選出し、審議しています。今後は、小川町議会だよりの中であわせて掲載していきます。

### ◎小川地区衛生組合議会（ごみ処理、し尿処理）

構成自治体：小川町・嵐山町・滑川町・ときがわ町・東秩父村

平成 24 年度第 1 回小川地区衛生組合議会定例会が、2 月 21 日に小川町の議場で開催されました。

小川町議会からは、松本修三議長、金子美登、小林一雄、井口亮一各議員が出席。上程された議案は 4 議案。うち一般会計予算は、歳入歳出 13 億 1773 万円。すべて原案のとおり可決、認定されました。

### ◎比企広域市町村圏組合

（消防・救急業務、斎場の管理運営、介護・障害審査会）

構成自治体：小川町・東松山市・嵐山町・滑川町・川島町・吉見町・ときがわ町・東秩父村

平成 24 年度第 1 回比企広域市町村圏組合議会定例会が、2 月 6 日に東松山市の議場で開催されました。

小川町議会からは、松本修三議長・松葉幸雄議員が出席。上程された議案は 10 件。うち歳入歳出予算は、一般会計 8500 万円、消防特別会計 37 億 1500 万円、斎場、霊柩自動車事業特別会計 11 億 4000 万円、介護認定、障害程度区分審査会特別会計 8200 万円。すべて原案のとおり可決、認定されました。



建設中の新小川消防署

## 請願審査

### 深田下水管路修繕工事に伴う資金援助に関する請願

請願者 小川町大字勝呂 1285-12  
深田下水管理組合  
理事長 新井英世

審査結果 経済建設常任委員会に付託され、委員長報告は「採択」でした。本会議での審査も「採択」となりました。

### 年金支給額の切り下げ及び年金支給開始年齢の引き上げに反対する意見書の提出を求める請願

請願者 東松山市松葉町 2-15-17  
全日本年金者組合  
東松山支部 支部長 欠川美二

審査結果 厚生文教常任委員会に付託され、委員長報告は「不採択」でした。本会議での審査も「不採択」となりました。

### 障害者総合福祉法の制定を求める意見書の提出を求める請願書

請願者 小川町大字小川 379-4  
小川町身体障害者福祉会  
会長 高野宗吉

審査結果 厚生文教常任委員会に付託され、委員長報告は「採択」でした。本会議での審査も「採択」となりました。

## 意見書の提出

### 議員提出議案

### （仮称）障害者総合福祉法の制定を求める意見書

議員全員賛成で議決し、内閣総理大臣をはじめ関係大臣に提出しました。

## 議員

### 記者クラブ

シリーズ 安全・安心の主役たち③

### 小川町交通安全隊

小川町交通安全隊は、昭和 44 年の発足以来、児童・生徒の登下校時の交通指導を中心に、町の行事や各種イベントの際の交通警備などを行なっています。特に、児童・生徒に対する交通指導は、交通安全運動期間中だけでなく、交通の激しい交差点などを中心に、日々立哨指導をしていただいています。現在隊員は 11 人。隊員さんに伺いました。



### Q 皆さんが活動をしていて感じることは

- ・以前と比べて子どもたちがよくあいさつしてくれる。
- ・私服のときに街で会っても、子どもたちがあいさつしてくれたり、手を振ってくれたりすることが何よりうれしい。
- ・気象条件の悪いときはお互いにあせる。事故がないようにと特に気を遣う。
- ・ドライバーのマナーの悪さが目につく。信号無視や運転しながらの携帯操作。子どもが見ている。交通マナーを守ってほしい。
- ・発足以来 44 年立哨指導を行なっている。お父さんと子ども、2代にわたって見てきた。

- ・子どもたちから感謝の作文をもらった。大切にしている。
- ・疲れていても安全隊の制服を着ると気持ちがしゃんとする。
- ・苦労だと思えばやってこられなかった。地域の事故を少しでも減らしたいという思いでやってきた。
- ・人のためというよりも自分のため。「立つ」ことが生活の一部になっている。
- ・発足当時 31 人いた隊員も現在 11 人。ぜひみなさんも隊員に！

一口に 44 年といっても、雨の日も雪の日も体調の悪いときもあります。まさに「地域の力」。感謝、感謝です。担当 柳田